

2024 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	法学部・法学科・2 年
------------	-------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

今回の START プログラムに参加して一番の学びはインフラや福祉の重要性です。ルサカでもカイロでも、大きな道路から 1 本外れるとそこは全く違う暮らしが広がっていました。また、ルサカからリビングストンへの移動やカイロからアレクサンドリアの移動の最中に見た農村の生活も同様に印象に残っています。他国と変わらない生活と伝統的な生活のどちらがよいという優劣はありませんが、最低限の電気や水、教育や医療などの普及は喫緊の課題であると感じました。e-START で出会った学生との交流や 2 回にわたる事前講義などある程度の知識があるつもりでしたが、実際に見た時の衝撃は今回のプログラムの中で何よりも印象に残っています。

また、私がこのプログラムに参加した理由はイスラム教徒の生活や価値観に直接触れたかったからです。エジプトでは実際にモスクから流れるアザーンやお祈りをしている様子を見るなど多くのことを学ぶことができました。その中でも E-JUST のアマル准教授のイスラム教についての講義で、日本で議論を呼んでいる埋葬方法などについて質問することができ大変勉強になりました。また一口にアラビア語やイスラム教といっても、その国々の歴史的・文化的背景によって大きく異なるということも今回の学びの一つです。この視点は日本でイスラム教の受け入れについて考える場合やボランティア活動でイスラム教徒の子どもたちと関わる際に大事にしたいです。

インターネットで得られる海外の情報と実際の情報との乖離も印象に残っています。現地の最新の情報が常に変化しているのは当たり前ですが、聞いていた話と全然違うということが何度もありました。自分の中の偏見や先入観を見つめるよい機会であり、メディアとの関わり方を考える機会ともなりました。また考え方や思考プロセスを理解できないと感じることはあまりありませんでしたが、価値観や思想を理解が十分にできなかったところもありました。e-START や事前講義では現状の課題について取り組みましたが、その国の主な考えを理解するには深く歴史を理解すべきだと身をもって体験できました。今後の長期留学やショートプログラムへの参加の際には同じ轍は踏まないように勉強して臨みたいです。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

現地の大学での講義や学生との交流が楽しかったのはもちろんですが、普段はなかなか

かお会いできない大使や公使の方のお話を聞けたことや JICA をはじめとしたザンビアやエジプトで働く日本人の様子を学ぶことができ、非常に有意義な研修になったと思います。予期せぬ形で自分の将来の選択肢を広げることができました。また政府の支援や日本の商品の普及など外から日本を見ることができたり、値切ったりぼったくりに遭ったりしたこと、空港まであと 1 km でバスがエンストしたこと、挙げればきりがないほど思い出深い毎日でした。しかし、あっという間だったか、物足りなかったかというところと全くそんなことはなかったです。もっと学生と交流したかった、講義を受けたかった、地方の生活も体験してみたかったという思いもありますが、初めての海外経験で食事や気候の負担は大きくしんどい面もあったということが正直な感想です。初めての海外渡航なら 2 週間程度がちょうどよかったと思います。また今回のプログラムでは 2 週間の滞在から感じた生活や文化の違いよりも、初めての海外経験として感じた共通点の方が多かったと思います。実際にそこで生活しないと見えてこないこともたくさんあると思うので、今後は異文化への理解を深め、その違いから改めて日本について学ぶために長期留学を目指そうと思います。この経験が長期留学を志す決定打となりました。よい経験を本当にありがとうございました。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

このプログラムに興味があれば留学 week の参加 or 国際室に話を聞きに行くことが確実でおすすめです。学部によっては集中講義があって e-START や事前講義にすべて参加することは難しいかもしれませんが、相談したら調整はしてもらえるのでぜひ挑戦してみてください。学部や学年、国籍を超えて友達ができます。

- ・アフリカの START プログラムはアジアに比べて費用が高めですが、食費やお土産代が安く済みます。また、両替の際はあまり現地のお金に換えすぎない方がよいです。私たちは帰りに現地のお金からドルに換えられなかったもので、100 ドル分くらい両替しドルで払える場面はドルで払った方がよいです。また、細かいドル札ではレートが下がってしまうので日本円からドルにする時は 100 ドル札か 50 ドル札に両替するのがおすすめです。

- ・ご飯が合わない時に備えて日本食を持って行ってもよいですが、2 日分あれば十分です。ホテルでの食事は日本と変わらないですし、スーパーの商品もとても美味しかったです。お腹を壊すタイプの人は途中で日本食に切り替えても治りませんでしたし、日本に帰ってから体調が悪化した人もいます。

- ・海外データローミングは会社によって使えない場合があります。SIM はザンビアではほぼ毎日行っていたスーパーで購入できましたが、エジプトでは購入する機会はありませんでした。e-SIM かポケット Wi-Fi がおすすめです。ただホテルや寮にはフリー Wi-Fi が弱いですが存在するので、全く準備しなくても何とかかなり使えます。オフラインで使える辞書をスマホにダウンロードしておくとう便利です。

- ・パソコンは 1 回授業で ppt を作成した以外には使いませんでした。その割に貴重品として扱いが大変なので、持っていけない方がよいと思います。

第 90 回 START プログラム (エジプト・ザンビア)

・着用場面はカジュアルな服よりフォーマルな服の方が多いので、機内用の服以外は襟付きで用意することをお勧めします。

2024 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	学部・学科・年 教育学部日本語教育系コース 2 年
------------	---------------------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

このプログラムを通じて、「国際協力の重要性」、「他言語・他文化との交わり」について学ぶことが出来た。第一に「国際協力の重要性」についてだが、ザンビア・エジプトの両国で日本の国際協力機構である JICA を中心に行っている技術・設備提供が国の発展に大きな影響を与えていることを知った。現地の農業や教育、貧困、格差問題に対して取り組んでおられる日本人の方とお話しすることを通じて「自分にも何かできることがあるかもしれない。」とより自分事としてとらえるきっかけになった。何よりも、テレビや SNS などのマスメディアで発展途上国の状況を目にすることはあっても、何不自由なく生活ができる日本ではそれらを見て何かアクションを起こそうとすぐに思いたてる人は少ないように感じる。しかしながら、現地に行き自分の目、耳、鼻、口で現状を理解する機会はこのからの人生の生き方を考える貴重な機会になったと思う。

第二に「他言語・他文化との交わり」についてだが、無知であることの恐ろしさや自分の無意識の偏見に気付かされた。例えば、私が渡航する前のアフリカのイメージは外部との交わりがあまりなく、オリジナルの文化・言語がたくさんあるのだろうと想像していた。確かに固有の文化・民族言語はあったものの、大学では日本語を学習していたり、ザンビアでは英語が公用語のため、コミュニケーションは何不自由なく取れることなどのグローバルさに驚いた。一方で、ザンビア大学の講義で英語やヨーロッパ文化の影響が大きすぎて、最近の子どもは固有言語を話すことが出来なくなったり、文化も均一化していたりするということを学習した。今の両国では私が高文化を学習することの重要性を感じたようにいい意味でギャップが生まれていたが、もしこれからの社会で他国からの影響が大きくなりすぎれば、国も人種も文化も言葉も違うはずなのに異文化での生活を感じられなくなるかもしれないと思った。これからの大学生活では「言語」を専門的に学習していく中で、言葉がその国の文化、社会にどのような影響を及ぼしているのか、言語学習がもたらす光と影について向き合っていこうと思う。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

自分の人生の糧となる最高の経験をすることができた。遠く離れたアフリカで多くのかけがえのない友達を作ることができたのはもちろん、学年・性別・専攻・出身も多種多様な広大生とも深いつながりを持つことが出来た。それぞれがこのプログラムに対しての思いや高いモチベーションを持っているため刺激を与えあうような充実した環境で 2

週間を過ごすことが出来た。個人的な旅のハイライトは、渡航前の E-START プログラムで同じグループだった学生に現地で直接会うことができたことだ。ザンビア大学とインシャムス大学で 2 人の学生に出会い、直接交流することが出来たのは感慨深いものがあった。また、昨年の秋学期に E-JUST から HUSA で交換留学生として広島大学で半年間学習し、私が所属している日本語交流サークルにも来てくださっていた学生とも会うことが出来た。エジプトで再会するとはお互いが夢にも思わなかったため二人で喜びを分かち合った。文化、国籍、言語の壁を越えていろいろな人と巡り合うことができたのはこの旅の大きな収穫だったと思う。

また、日本には感じられない時間感覚の違いやマーケットでの値段交渉、物乞いをする子ども、交通状況、インフラ設備、野犬や野良猫などの日常で目にするもののすべてが非日常の経験だった。このような経験から各々が日本の良し悪しを再確認することが出来たと思う。大学訪問などで学習したアカデミックな知識はもちろん、現地の人々の交流や日常的に目にするもののすべてを吸収し、これからの大学生活に生かしていこうと思う。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

このプログラムはお金の値段以上の経験をすることができると確信できる。海外に行く人が初めての人もそうでない人も、大学と国が提供する比較的安心・安全なプログラムを利用して日本の外の世界を見ることは、今後の人生を左右しうるかもしれないくらい大切なことだと思う。加えて、集団のなかでそれぞれのメンバーが思い描く将来の進路や考え方が違うからこそ、お互いに意見を交流し合いながら新たな価値観を加えていくことができるのも良さの一つであると思う。ただ、英語力向上のみを目的としてこのプログラムに応募するのであれば、英語ネイティブの国に留学できるプログラムに応募する方が語学力は伸びると思う。しかしながら、英語力に加えて、国際協力や日本と全くかけ離れた異文化体験などを経験したいと思うのであれば、絶好の機会だと思う。帰国後、確実に一皮むけた人に成長でき、人生をより豊かにしたいと考える人にとってはぜひ応募していただきたいと思う。

(追記)

アフリカのプログラムでは体調を崩す学生が続出します、、私たちもそれなりの覚悟を持って渡航しましたが、8割以上の学生がおなかを下しました(入院するなどのレベルではありませんが)。なので、もし渡航される際には日本からの水を持っていく方がいいと思います。食当たりにならなくても、水の性質の違いからおなかを壊してしまう可能性があります。(日本の水は軟水でアフリカの水は硬水)

体調管理には十分気を付けて留学生活を楽しんでください！！

2024 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	生物生産学部・生物生産学科・1 年
------------	-------------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

今回の START プログラム、そしてその事前準備となる e-START プログラムで一番感じたことは、自分の英語力の無さです。まずオンラインの e-START プログラムで思った以上に他の参加者の英語が聞き取れず、チームの活動に主体的に貢献できませんでした。それから START が始まるまでに英語力は上げられず、不十分なまま渡航することになりました。もちろん訛りの加わった、リスニング難易度の高いアフリカ英語をかんお駅に聞き取ることなどできず、何回も聞き直したりちんぷんかんぷんな返答をして笑われたり、「ダメだこいつ」みたいな表情をされたりしました。これではまずいと感じて、プログラム後半のエジプトでは現地の大学で話合いやプレゼンをやると伝えられていたもので、移動中のバスなどで景色を見るのに一通り満足した時には、ネイティブスピードのリスニング音声をイヤホンで繰り返し聞いていました。

前期の授業でも英語のものがいくつもあり、その度に自分の至らぬ英語レベルを感じていたはずでは有りました。しかしその反省をこのプログラムまでに生かして英語レベル(特にリスニングとスピーキング)をもっと向上できなかったのがとても大きな反省点です。しかし、このプログラムで生まれた新たな反省を今回は生かしていると実感しています。帰国後にすぐに買ったままだった単語帳を再開し継続的に学習できており、また以前よりも積極的に留学生に話しかけたりできるようになっています。全てが思う通りにはいかなかった今回の二週間のアフリカ留学でしたが、悔しいなどといったマイナスの感情も力にして、今後の英語力、そして元々興味のあった国際協力の勉強を進めていきたいと思います。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

ザンビアに降り立ってすぐにトラブルに見舞われ、エジプトでは一生腹を下し、全てが順調だった訳では無かった今回の START プログラムでしたが、終わって振り返ってみればそんなことも含めていい経験になったなというのが私の感想です。

しっかりと思い描いた通りのハプニング(バゲッジディレイ、下痢、エンストなど)が発生し、休む暇もない二週間でした。単に帰ってきてからの思い出話が増えてよかったな、というだけでなく、予想外の出来事に対処する力、自分の居心地の良いところ(コンフォートゾーン?)から飛び出して新しいことに挑戦できるようになりました。自分から現地の人に話しかけてみたり、今まで敬遠していたダンスを初めてみたり、前の自分よりも行

動範囲を広げられたと思います。また英語力が足りなくてもなんとか単語の羅列で乗り切ったり、買い物で値引き交渉をしたりと、良い意味での図太さも身についたかなと感じました。ここまでの文章の書き方だと全て自力で乗り切ったかのように聞こえますが、引率の方や広大関係者の方がトラブル対処に協力してくださっていると聞きましたし、そもそもこのプログラムに参加したのも友人が誘ってくれたからです。渡航する前も国際部の職員の方がプログラムの先輩を紹介してくださったり、とにかく色々な巡り合わせのおかげで参加し、無事乗り越えることができました。図太さも身につきましたが、やはり周りへの感謝の気持ちも忘れないようにしたいです。改めて今回関わってくださった広大の方々、一緒に行ったメンバーの皆さん、そして応援してくれた家族や友達にここでもう一度感謝の言葉を述べたいと思います、ありがとうございました。今回の悔しさも含めた経験やを決して無駄にすることなく将来の目標に向けて勉強を続けます。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

【お願い】以下に三つの事柄を書きます。下三つは他の参加者の方々も書いているであろう内容なのですが一つ目は私だけが今回経験したアクシデント(バゲッジディレイ)についてなので是非ご一読ください。

・ YOUR BAG IS UNLOADED

前半ザンビア・後半エジプトの二週間のいきなり最初、ザンビアのルサカ空港でいきなりこのプラカードを持ったザンビアン空港職員にお出迎えされました。まさか自分のキャリーケースだけ届かないなんてことを信じられませんでした。そこから無事(?)ザンビア一週間リュックサックだけ生活を送ることになりました。ここでアドバイスしたいのがパソコンなどの貴重品は勿論のこと、歯ブラシやカミソリなども持ち込み手荷物に入れておくことです。服などは現地で調達したり他の友達から借りたりできますが、そうでないものは少なくとも数日は持つようにしておきましょう。

・日本食、胃腸薬、ポカリスウェットは必携です。アフリカでは食事が全体的に脂っこい、硬水が体質的に合わない、食べ物が衛生的に悪い、などから高確率でお腹を壊します。実際、私は十数人のメンバーと行ったのですが、まったく調子を崩さなかったのは一人いたかも怪しいという程度です。電子レンジが意外とないので、日本食はお湯を注ぐだけで食べられるα米などとインスタント味噌汁を持っていくことを強く勧めます。

・迷ったらとりあえずやってみましょう。せっかくの海外経験でたった二週間しかありません。気になることがあったら積極的に現地の人に話しかけてみてください。日本人同士だとどうしても日本語をしゃべってしまうので英語力自体は残念ながらそれほど向上しません。このプログラムを英語力やその他のスキルの向上の機会にできるよう後悔のないように存分に経験を積んでください。

2024 年度前期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	法学部・法学科・1 年
------------	-------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか

ザンビアでは、大学や JICA、孤児院への訪問など様々な場所に行き、貴重な体験をさせていただきました。ザンビア大学やホテルの近くのモールを訪れて自分が想像していた「アフリカ」のイメージが崩され、想像以上に発展していることに驚きました。モールでカートいっぱいに爆買いをしている現地の人を多く見て豊かさを感じた一方で、孤児院を訪れ、NGO の方から、学校にいけない子供たちや虐待などの家庭問題を抱える子供たちの話を聞いて、貧富の格差が大きいことを実感しました。また、ストリートチルドレンに一度なってしまうと、ドラッグ中毒に陥ったり、良い人間関係を築けなくなったりして、普通の子供には戻れないということから、その孤児院では、ストリートチルドレン予備軍と呼ばれる子供たちを支援し、教育支援を行うだけでなく、人と共に生きることを教え、家庭の問題に寄り添い、親に親の役割を教えるなど、ストリートチルドレンを予防するような活動をしているということを教えていただきました。貧富や教育の格差が大きいという問題は様々な問題が絡まっており、根深く、そう簡単に解決できない問題だということを再認識しました。それと同時に支援の難しさと大切さも学びました。先進国が発展途上国に支援すること、国と国の繋がりの重要性や現地とは違う視点で課題を発見できるという点で支援の必要性を感じる一方で、その支援が行き届かず、無駄になり、使われていない施設などを見ると、先進国と当事国にはギャップがあり、良かれと思ってやるのがすべて良いことではなく、むしろ齟齬だらけであることが分かりました。だからこそ、現地の人と相談し、現地の需要に合うような支援が必要だということを学びました。

エジプトでは、E-JUST で様々な分野の講義を受け、夜には日本語を学んでいる学生たちと交流しました。アフリカの人は関わりづらいというイメージも少なからずあったのですが、話してみると皆さんとてもフレンドリーで、とても楽しい時間を過ごせました。エジプトで特に感じたのは宗教の違いです。コーランに従って生活したり、私たちからお菓子をもらっても、先生に成分を聞いてから食べたり、宗教が生活の一部となっているのが印象的でした。文化や宗教が違う人に不快な思いをさせないためにも、ある程度の知識は必要であると学びました。また、エジプトでも、JICA や日本大使館に訪問させていただき、貴重なお話を聞くことができました。

今回、ザンビアとエジプトの 2 か国を訪れたのですが、2 か国とも自分のイメージして

いたものと大きく異なり、実際に訪れ自分の目で見るとはとても大切だと学びました。そして、正しい情報を得ること、現地で得た情報を共有することが実際に見た深刻な問題に対して今私たちができることではないかと考えました。私は将来、国際協力に携わる仕事に就きたいと考えているのですが、この START で実際に見た現地で他国のために働く日本人を見ることができたことは今後の進路を考えるうえで非常に役に立つことばかりでした。今回学んだ、異文化や他国への支援の仕方について再考し、進路選択したいと思います。

(2) プログラム内容についての全体的な感想

上記のように、二か国も訪れることができ、JICA や大使館訪問など、貴重な体験をさせていただきました。このプログラムに参加できて心からよかったと思います。このプログラムのために動いてくださった方々、関わってくださった方々、本当にありがとうございました。

プログラム内容は非常に充実していたと思います。教育や、食料安全、医療保健など幅広い分野を学ぶことができ、非常に勉強になりました。大学での講義だけでなく、博物館などの観光地にも数多く訪れることができました。1 日に何か所も行くことも多く、猛暑と疲労からその時は詰め込みすぎではないか、休憩時間が欲しいと思うことも少なからずありましたが、今思うと、もう二度と訪れることがないかもしれないので、ガイド付きで行くことができ良かったなと思います。大学訪問などで、現地の大学生と交流でき、e-START で関わった大学生の方とも実際に会うことができ、良かったです。また、国際協力に興味があったため、JICA や大使館、NGO の訪問は非常に興味深く、現地で働く日本人の方々の話を実際に聞いたことはよい経験となりました。支援に対する考え方や、その仕事に対する考え、向き合い方はインターネットなどの情報からは知り得ないことばかりで貴重なお話を聞くことができました。

さらに、現地の方や現地で働く日本人だけでなく、プログラムに参加する他のメンバーからも刺激を受けることができました。自分の学部以外の人と、こんなに深く関わる機会は少なかったため、とても刺激的でした。特に、このコースに参加した人達は、とても積極的で、コミュニケーション能力や英語の力が非常に高く、私も積極的に動きたいと思い、現地の人に質問したり、帰国後も外国の方と積極的にコミュニケーションをとったりすることが自分からできるようになり、とてもよい影響を受けることができたと思います。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

私は、このプログラムに参加できて良かったと思っているのですが、心残りな点もいくつかあります。1 番悔しかったのは、エジプトで、お腹を壊し、本当は参加できたはずのものに参加できなかったことや、腹痛で思うように行動できなかったことです。実際、参加者のほとんどの人がお腹を壊していたので、仕方のない事だともいえるかもしれません。しかし、体調が万全なら良かったのにと何度も思ったのも事実です。腹痛の考えられる原

因は食あたりや水です。私は、もったいない、残すのはよくないと思い、限界を感じなくなるくらいには口に合う合わない関係なしに食べてしまっていました。そのため、お腹を壊してからは消化によさそうなものをよく嚙んで水をたくさん飲むように心がけていました。少しでも異変を感じたら食べない、生野菜などを避けるなど気を付けるといいと思います。水は個人的にはどれも比較的に飲みやすいと感じましたが、マグネシウムの少ないものや pH が 6～7 程度のものはより飲みやすいかもしれません。もし腹痛になってしまった時のために、日本食（おかゆやおみそ汁など）や薬を持っていくとよいでしょう。薬は、自分に合うものや整腸剤などがいいと思います。もちろん、腹痛にならない、体調不良にならないためにも規則正しい生活は最も重要です。よく寝て、食べ過ぎない程度によく食べましょう。

英語に関しては、スピーキングは多少文法が変でも通じます。伝えようとするのが大切なのだと学びました。私は、渡航前からリスニングが苦手だったのですが、渡航後にも聞き取れなかったことがしばしばありました。現地の訛りもあるので、より聞き取りづらいこともあるため、渡航前にリスニング力をもっと鍛えておけばよかったと思います。また、円滑なコミュニケーションのため、事前に質問したいことについて考えておくとういいます。

最後に、やはり海外というのに期待や不安はあると思うのですが、必ずと言っていいほど、貴重な経験ができると思います。多くのことを感じて、すべて吸収するくらい学んでください。そして、その日感じたことなどをメモしておく、帰国後、その時感じたことを思い出せてよいと思います。結局は自分がその環境や状況でどのように動くかだと思うので、頑張ってください。